

平成19年度 事業報告書

財団法人日本ハンドボール協会

1. 普及指導に関する事業

1) 普及関係

(1) 少年チーム活性化推進ブロック会議

- | | | | | | |
|-----|----------|--------|----|-----------|---------|
| 北信越 | 8月11日(土) | 会場(小松) | 九州 | 9月2日(日) | 会場(福岡) |
| 北海道 | 8月25日(土) | 会場(函館) | 関東 | 12月8日(土) | 会場(常総) |
| 中国 | 1月26日(土) | 会場(総社) | 東海 | 10月27日(土) | 会場(名古屋) |
| 東北 | 2月23日(土) | 会場(東根) | 近畿 | 8月12日(日) | 会場(長浜) |
- ・少年チーム活性化の方策についての情報交換

(2) 小学生専門委員会

① 第1回小学生委員会 5月13日(日)事務局

- (1) 第20回全国小学生大会について
- (2) J級指導者講習会について
- (3) ブロック委員会の開催について
- (4) 各種調査について
- (5) (財)大崎スポーツ事業研究助成財団補助による事業展開について

② 第2回小学生専門委員会 7月28日(土)京田辺市

- ・男女混合チームの大会参加認可の件について
- ・5月からの少年チーム実態調査の報告(説明資料有り)
- ・ハンドブックの作成進捗状況報告
- ・J級指導者講習会について実施促進

(3) 中学生専門委員会

① 第1回中学生委員会 8月19日(日)福島ビューホテル

- ・4巡目の大会(H23:近畿大会)への規模の検討
- ・北海道と東北ブロックを統合し8ブロックで行う
- ・JOCジュニアオリンピックカップ第16回大会からは24チームで実施
- ・協会登録数との開きがあり、登録を進めるように務める

② 第2回中学生専門委員会 12月24日(月)堺市家原大池体育館

- ・個人登録料の確認—H20年度より実施
- ・春の全国中学生大会会議内容の一部変更

(4) 小学生指導要領対策

① 文部科学省訪問 文部科学省スポーツ・青少年局

② 第1回学校体育検討専門委員会 4月22日(日)事務局

- ・第10回研究集会実施案検討
- ・講師依頼(文部科学省調査官等)
- ・委託校選定について

③ 小委員会(打ち合わせ) 8月5日(日)岡山市

④ 第9回研究集会 8月6日(月)、7日(火)岡山市

- ・授業発表
- ・実技研修と講義

(5) ビーチハンドボール専門委員会

① 第9回全日本ビーチハンドボール大会 4月29日(日)千葉県南房総市富浦町

千葉県 男子4チーム、女子3チーム
審判講習会、指導

②10月の常務理事会への報告

今後の日本協会の姿勢

- ・当面国内の普及発展に努める。国際選手権大会へはチームを送らない
- ・これまでのように、国内中心で活動し、国際大会へは希望が在れば適宜対応

(6)マスターズ専門委員会

- ・第1回中央委員会 4月14日(土)

①三審制について ②氷見大会打合せの派遣について

(7)女性委員会

- ・アンケート集計 ・アンケート理事会報告 (6月16日(土))

2) 指導関係

指導委員会

- ① スポーツ指導員養成 福島県、神奈川県、愛知県、広島県、熊本県
- ② 中央委員会 1月27日(日)NTC
- ③ 公認コーチ養成講習会 6月19日(火)～24日(日)ブラザー工業研修所・体育館
- ④ J級講習会、 京都、愛知、千葉

3) 競技者育成技術委員会

(1)第1回競技者育成技術委員会 6月16日(土)事務局

- ・ NTSの方針や、内容を各都道府県に浸透させるための方策を考える
- ・ 指導委員会もできる限りブロックトレーニングの際に研修会を併用する
- ・ 各委員会報告

(2)第2回競技者育成技術委員会 1月6日(日)中部大学

- ・ 強化委員会と連携し流動的に対応する
- ・ コーチ専攻学科の開設6大学
- ・ 小学生チーム大会交流会が開催されつつあり、選手に過剰負担にならぬように提案してゆきたい
- ・ センタートレーニングに指導者も参加することを義務づける

2. 競技運営に関する事業

1) 主要大会の管理・運営 (斜体は国際大会)

月	大会名	開催日程	開催地	結果
4月	第4回東アジアクラブ選手権(男女)	4/3-5	韓国・ソウル	男子:1:斗山 2:ハ銀行 3:大同特殊鋼 4:Beijing 女子:1: オムソ 2:Yonngin city 3: 大邱市庁 4:Beijing Army

	第9回全日本ビーチハンドボール選手権大会	4/28-29	富浦町原岡海岸	男子:1;あふたへず 2;RBC 女子:1;あぶらおおめ 2;藤乃
6月	第2回男子アジアビーチハンドボール選手権	6/25-30	イラン・バンダレアッハース	1;パキスタン 2;イラン 3;日本
7月	第9回女子アジア選手権(WC2008予選)	7/1-7	カザフスタン・アルマトイ	1 韓国 2;カザフスタン 3;チャイニーズタイペイ 4;日本
	第12回ヒロンマ国際大会(女子)	7/5-7	東区スポーツセンター	1;日本代表 2;広島メイプルレッズ 3;韓国実業団選抜 4;日本リーグ選抜
	JAPAN CUP 2007 TOYOTA GAMES(北京オリンピック男子アジア予選リハサル大会)	7/6-8	スカイホール豊田	1;日本代表 2;エストニア選抜 3;日本リーグ選抜 4;中国代表
	JAPAN CUP 2007 KUMAMOTO GAMES (1997年男子世界ハンドボール選手権開催10周年記念)	7/11-15	熊本県立総合体育館他	参加チーム;日本代表、日本リーグ選抜、エストニア選抜、中国代表(台風接近で一部試合中止のため順位決定なし)
	第27回全国クラブ選手権大会・西地区	7/13-15	松江市総合体育館	男子:1;HC奈良 2;宮崎フェニックス 3;MHC 4;PF須磨東ク 女子:1;徳山ク 2;大阪教員 3;風見鶏ク 4;レキカ
	第2回女子ユースアジア選手権(WC2008予選)	7/23-28	チャイニーズタイペイ・タイペイ地方	1;韓国 2;日本 3;チャイニーズタイペイ 4;チャイニーズホンコン 5;カタール
	高松宮記念杯第48回全日本実業団選手権大会	7/25-29	花巻市総合体育館	男子:1;湧永製薬 2;大崎電気 3;大同特殊鋼 女子:1;オムロン 2;北國銀行 3;ソニーセミコンダクタ九州
	第27回全国クラブ選手権大会・東地区	7/27-29	本宮町総合体育館他	男子:1;蓮田ク 2;不来方ク 3;甲府ク、水海道鬼怒清流ク jr 女子:1;青森ク Pink 2;SAKURAク 3;福島ク、REDS
	第15回全日本マスターズ大会	7/27-29	氷見市ふれあいスポーツセンター他	男子:1;NISSHIN 2;シルバースターズ 3;下松クラブアグルツ 女子:1;小松ク 2;富山エンジューズ 3;風見鶏ファミリー
	第20回全国小学生大会	7/29-31	京田辺市立田辺中央体育館他	男子:1;下郡HB少 2;神森小HBク 3;小島小HB部 女子:1;窪少HB部 2;少水海道HBク 3;平針南小
高松宮記念杯第58回全日本高等学校選手権大会	7/29-8/3	神埼中央公園体育館他	男子:1;北陸 2;藤代紫水 3;不来方、小林工業 女子:1;洛北 2;小松市立 3;宣真、夙川学院	
8月	西日本学生選手権大会	8/8-12	名東スポーツセンター他	男子:1;関西大 2;名城大 3;中部大、中京大 女子:1;武庫川女子大 2;大教大 3;大体大、福岡大
	東日本学生選手権大会	8/9-11	富谷スポーツセンター他	男子:A;函館大 B;富士大 C;国士舘大 D;法政大 女子:a;東北福祉大 b;日体大
	第12回男子ジャパノーフットボール	8/12-15	大分県立総合体育館他	1;ホノダ 熊本 2;HC秋田 3;HC岡山

	第12回女子ジャパンオープン トーナメント	8/12-14	大分市コンパルホール 他	1;香川銀行 T・H 2;HC 岡山 3;コスモスビッキーズ
	第34回全国高等専門学校 選手権大会	8/18-19	高松市総合体育 館他	1;米子高専 2;豊田高専 3;高松高専、大阪府立高専
	第36回全国中学校大会	8/21-23	県営あづま総合 体育館他	男子:1;吉川中央中 2;手代木中 3;けやき台中、月輪中 女子:1;東久留米西中 2;大住中 3;東陵中、郡山第一中
	第15回日韓中ジュニア交 流競技大会	8/25-27	中国・桂林市	男子:1;日本 2;韓国 3;中国 女子:1;日本 2;韓国 3;桂林 4 中国
	2008 北京オリンピック女子 アジア予選	8/25-29	カザフスタン・アルマトイ	1;カザフスタン 2;韓国 3;日本 4;カタル
	第11回日韓スポーツ交流 (派遣/男子)	8/26-30	韓国・ソウル	
9 月	2008 北京オリンピック男子 アジア予選	9/1-6	カタル・豊田	1;クウェート 2;韓国 3;日本 4;カタル 5;アラブ首長国連邦
	第11回日韓スポーツ交流	9/14-19	韓国	女子/派遣
	第32回日本リーグ	9/22-3/8	各地	
10 月	第62回国民体育大会	10/4-8	湯沢市総合体育 館他	成年男子:1;埼玉県 2;広島県 3;愛知県 4;佐賀県 成年女子:1;熊本県 2;鹿児島県 3;石川県 4;広島県 少年男子:1;福井県 2;愛知県 3;秋田県 4;大阪府 少年女子:1;京都府 2;大阪府 3;秋田県 4;石川県
	第11回日韓スポーツ交流	10/17-22	石川県・小松市	女子/受入
11 月	高松宮記念杯男子第50 回女子第43回全日本学 生選手権大会	11/10-14	函館市民体育館 他	男子:1;日体大 2;日本大 3;筑波大、早稲田大 女子:1;筑波大 2;東女体大 3;大教大、武庫川女子大
12 月	第18回世界女子選手権	12/2-16	フランス	1;ロシア 2;ノルウェー 3;ドイツ 4;ルーマニア (日本は19位)
	第59回全日本総合選手 権大会	12/20-24	駒沢体育館他	男子:1;大同特殊鋼 2;大崎電気 3;日体大、湧永製薬 女子:1;オムロン 2;広島メイプルレッズ 3;ソニーセミコンダクタ九州、 北國銀行
	第16回JOCジュニアオリンピ ックカップ	12/25-28	堺市家原大池体 育館他	男子:1;山口県 2;宮崎県 3;沖縄県、愛知県 女子:1;福井県 2;東京都 3;京都府、熊本県
1 月	2008 北京オリンピック男女 アジア予選再試合	1/29-30	国立代々木第一 体育館	男子:1;韓国 2;日本 女子:1;韓国 2;日本
2 月	全日本実業団チャレンジ 2008	2/9-11	神埼中央公園体 育館他	1;八光自動車工業 2;セントラル自動車 3;金沢市役所 4;自衛隊久里浜
	第13回男子アジア選手権 (WC2009 予選)	2/17-26	イラン・エスファハン	1;韓国 2;クウェート 3;サウジアラビア 4;イラン (日本は7位)

	第 32 回女子日本リーグ プレーオフ	2/16-17	大阪市立住吉ス ポーツセンター	1;オムロン 2;ソニーセミコンダクタ九州 3;北國銀行
3 月	第 32 回男子日本リーグ プレーオフ	3/16-17	駒沢体育館	1;大同特殊鋼 2;湧永製薬 3;大崎電気 4;トヨタ車体
	第 31 回全国高等学校選 抜大会	3/25-30	徳島市立体育館 他	男子:1;北陸 2;藤代紫水 3;瓊浦、小林工業 女子:1;洛北 2;高松商業 3;大分鶴崎、四天王寺
	第 3 回春の全国中学生 選手権大会	3/25-29	氷見市ふれあいス ポーツセンター他	男子:1;福井市明倫 2;通津 3;氷見南部、三郷北 女子:1;大蔵 2;福井市光陽 3;氷見北部、甘楽第一
	2008 北京オリンピック IHF 最終予選(女子)	3/28-30	ドイツ・ライプツヒ、 ルーマニア・ブカレスト、 フランス・ニーム	第 1 グループ:1;ドイツ 2;スウェーデン 3;クロアチア 4;キューバ 第 2 グループ:1;ルーマニア 2;ハンガリー 3;日本 4;ポランド 第 3 グループ:1;フランス 2;韓国 3;コンゴ共和国 4;コートジボワール

2) その他の事業

- ・ 平成 19 年度マッチバイザーの任務他各種通達、HP 上の運営マニュアル化の試行
- ・ 平成 19 年度チーム・選手・チーム役員登録業務
- ・ 競技運営連絡協議会の開催（東京）
- ・ 日本体育協会と連携し国民体育大会運営の簡素化・効率化への取り組み
- ・ 国民体育大会正規視察（東京都）
- ・ 2008 年北京オリンピックアジア予選愛知・豊田大会の管理運営
- ・ 2008 年北京オリンピックアジア予選再試合東京大会の管理運営

3. 国際に関する事業

1) 日本ナショナルチーム国際大会に関する事業

日程	カテゴリー	大会名称	開催地
4 月	審判員	GRTP コース(池淵・檜崎)	ハンガリー
5 月	男子 N	ヨーロッパ遠征	クロアチア(ザグレブ)
6 月	女子 N	ヨーロッパ遠征	オランダ・スイス
	男子 N	中国国際大会	中国(蘇州)
	ビーチ	第2回男子アジアビーチ選手権	イラン(バンダレアッパーズ)
	審判員	第2回男子アジアビーチ選手権	イラン(バンダレアッパーズ)
7 月	女子 U-20	第 9 回女子ジュニアアジア選手権	カザフスタン(アルマトイ)
	女子 N	第 12 回ヒロシマ国際大会	広島県(広島市)
	男子 N	JAPAN CUP 2007 TOYOTA GAMES	愛知県(豊田市)
	男子 N	JAPAN CUP 2007 KUMAMOTO GAMES	熊本県(熊本市他)
	女子 N	安東国際女子大会	韓国(安東)

	女子 U-18	第 2 回女子ユースアジア選手権	チャイニーズタイペイ(タイペイ)
	審判員	第 2 回男子ユース世界選手権 (池淵・檜崎)	バーレーン
8 月	男子 N	ヨーロッパ・アフリカ遠征	チュニジア、スロベニア、クロアチア
	女子 N	2008 北京オリンピックアジア予選	カザフスタン(アルマトイ)
	男子 U-16	第 11 回日韓スポーツ交流	韓国(盆山市)
	男女高校生	第15回日韓中ジュニア交流競技大会	中国(桂林市)
9 月	男子 N	2008 北京オリンピックアジア予選	愛知県(豊田市)
	女子 U-16	第 11 回日韓スポーツ交流	韓国(済州島)
10 月	女子 N	オランダカップ	オランダ(ロッテルダム)
	女子 U-16	第 11 回日韓スポーツ交流	石川県(小松市)
11 月	女子 N	ヨーロッパ遠征・ツルチンカップ	ウクライナ
12 月	女子 N	第 18 回女子世界選手権	フランス(ニーム)
	役員	東南アジア選手権	タイ(バンコク)
1 月	男・女 N	2008 北京オリンピックアジア予選再試合	東京
2 月	男子 N	第 13 回男子アジア選手権(西山)	イラン(イスファファン)
3 月	女子 N	中国国際大会 2008	中国(北京)
	女子 N	ヨーロッパ遠征	オランダ、フランス
	女子 N	2008 北京オリンピック IHF 最終予選	ルーマニア(ブカレスト)

2) 国際会議に関する事業

(1) IHF 関係

- ・ 4 月 IHF 総会に出席 (スペイン: マドリッド)
渡邊会長・市原副会長・蒲生常務理事
- ・ 1 2 月 I H F 理事会決定後の諸連絡に関すること
 - ・ I H F と A H F に対しての諸連絡および韓国との協力連絡
 - ・ 再試合に関する全ての連絡
 - ・ 男子アジア選手権の出場可否についての連絡
 - ・ 北京オリンピック女子最終予選の全ての連絡
- ・ C A S 裁定に出席 (スイス: ローザンヌ)
蒲生常務理事・パウワー監督・佐久川主将・藤本コーチ
- * 審判登録・派遣・レフェリーコースに関する連絡
- * IHF ニュース翻訳

(2) AHF 関係

- 4 月 AHF 総会(クウェート)
- 12 月・1 月 AHF 常任理事会(クウェート) 渡邊会長
- * AHF に関する連絡

* 審判登録・派遣・レフェリーコースに関する連絡

* AHF 会議議題・議事録の翻訳

(3) EAHF 関係

11 月 EAHF 会議(韓国・日本)

* EAHF に関する連絡

3) その他の事業

(1) 国際移籍等に関する連絡(移動証明書の発行など)

田中 麻美	ドイツ移籍案件の補助
谷口 尚代	ドイツ移籍案件の補助
浅井 友可里	ドイツ移籍案件の補助
金城 晶子	ドイツ移籍案件の補助
ベルト・パウワー	外国人コーチ租税条約
イビツァ・リマニッチ	外国人コーチ租税条約
Ms. Huh Soon Young	オムロン → デンマーク
Mr. AKATSUKA Koji	南山大 → ドイツ
Ms. NAKAMURA Naomi	北國銀行 → オランダ
Mr. MATSUMOTO Ken	日本 → ドイツ
Ms. MIYAGI Tomoe	スウェーデン → スウェーデン

(2) 翻訳業務

大会要綱の翻訳
海外大会情報の翻訳及び掲示

4. 競技規則(審判)に関する事業

【基本方針】の報告

1. トップレフェリーの資質の向上

トップレフェリーの年齢が高くなり、入れ替えを推進しているが若手レフェリーの育成が遅れてしまっている。しかし、レフェリーコースの内容を変化させ将来性のあるレフェリーが育つ要素はある。

国際審判の池淵・檜崎は IHF の大会への指名があったが他のレフェリーには指名がない。コンチネンタルレフェリーへの登録も AHF から講習会の案内がないのでコンチネンタルレフェリーも育成できていない。今まではオリンピックや世界選手権の前にレフェリーコースが開催されていたが今年は、まったく案内が来なかった。日本でのコース開催を考えないと国際レフェリーを育成できなくなる可能性もある。

2. 競技規則の正しい運用

各ブロックでの講習会は開催され上級レフェリーへの競技規則運用の説明はできているが D・C 級対象の各都道府県の講習会の動向がつかめない。そのため 20 年度 4 月に県審判長を集め講習会の資料を提供し、都道府県単位でも同レベルの講習会を開催できるように

考える。

3. オーダーメイド審判指導

「審判の手引き」を作成はできなかったが、判定の基準になる指導 DVD を作成した。(4月の都道府県審判長会議で配布)

【重点施策】について

1. 視聴覚教材の充実

IHF から配布された審判指導 DVD を使い、審判の視野とポジショニングの関係を中心にした指導用 DVD と藤代紫水高校の協力でプレーを再現した判定基準の参考 DVD の作成をした。20 年度都道府県審判長会議で配布。

2. 審判員評価事業の効果的な展開

審判評価の結果と指導内容をブロック審判長に報告。点数だけでなく優れた部分と不足部分の具体的な内容を知らせた。

3. ヤングレフェリープロジェクト (YRP) の充実

今年度具体的にスタートしたのは、岩手・大分・愛知の 3 県だけであったが他の県でも YRP への意識は高くなってきた。20 年度は NTS の講習会にヤングレフェリーの参加ができるようにしたい。

4. 継続行事の実施

1)平成 19 年度登録公審判員数 2,713 名 (前年度プラス 96 名)

終身 116 名、国際 14 名、A 級 275 名、B 級 518 名、C 級 673 名、D 級 1,117 名
(女子公認審判員数 A 級 7 名、B 級 16 名、C 級 56 名、D 級 189 名 合計 268 名)

2)公認審判員上級審査結果

◇A 級審査は、全国クラブ選手権東地区をモデルに、B 級は北地区(岩手)・東地区(神奈川)・中地区(兵庫)・西地区(宮崎)の 5 地区にて実施。結果は下記の通り。

	A 級	B 級
審査申請者	29 名	51 名
書類不備者	0 名	4 名
欠席者	2 名	2 名
筆記不合格者	0 名	12 名
実技不合格者	1 名	9 名
体力不合格者	0 名	—
合格者数	26 名	28 名

B 級筆記不合格者と実技不合格者は重複している
不合格は書類不備を含めて 21 名

◇レフェリーコース受験状況

前期 期 日 8 月 13 日(月)～15 日(水)

モデル 長浜ドリーム大会

場 所 滋賀県 長浜市

担当者 越田義昭、森山正治、岸本光夫
 後期 期 日 3月21日(金)～23日(日)
 モデル 関東学生男子1部チーム強化試合
 場 所 日本体育大学健志台体育館(横浜市青葉区)
 担当者 越田義昭、岸本光夫、伊藤宏幸

結果は下記の通り。

申請者数	12名
B級認定者	6名
C級認定者	6名

B級認定者に23歳以下の若い女性レフェリーが3名含まれ、全国大会に積極的に起用したい。

◇実業団レフェリーコース受験状況

期 日 2月9日(土)～11日(月) 佐賀県神崎市にて実施
 モデル 実業団チャレンジカップ
 担当者 越田義昭、森山正治

結果は下記の通り。

申請者数	6名
B級認定者	2名

3) トップレフェリー研修会

期 日 7月7日(土)、8日(日)
 会 場 スカイホール豊田
 対 象 19年度全国大会ノミネートレフェリー
 参加者 審判審査指導専門委員を含め59名参加
 モデル JAPAN CUP 2007 TOYOTA GAMES
 内 容 座学 ・越田審査委員による判定の問題点
 ・岸本審査委員による新ルールの解説
 実技 国際大会レフェリーチェック

4) 審判員評価

- ・全日本高等学校選手権大会参加審判員評価(佐賀県) 審判審査指導専門委員3名派遣
- ・全日本総合選手権大会審判員評価(東京都) 審判審査指導専門委員6名派遣)

5) 国際審判員の登録と海外派遣実績

- | | | |
|---------------|---------------|-------------------|
| ・ I H F 登録審判員 | ・ A H F 登録審判員 | ・ A H F ビーチハンド審判員 |
| 家永昌樹・福島亮一 | 浜田浩和・小笠原久郎 | 仲田 稔・植村 彰 |
| 池渕智一・檜崎 潔 | 永春文義・安田 寛 | |
| | 藤井俊朗・大熨嘉彦 | |

と登録の届けを提出したが、IHFは登録確認できたがAHFがどう扱っているか不明

・ Y R P 登録

本田昭太・田渕元雄

国際試合と海外派遣

G RTP コース

期日 4月6日(金)～4月9日(月)

場所 ハンガリー

指名 池渕智一・檜崎 潔 (IHF)

2nd Men' s Youth World Championship 2007 Bahrain

期日 7月24日(火)～8月4日(土)

場所 バーレーン

指名 池渕智一・檜崎 潔 (IHF)

JAPAN CUP 2007 TOYOTA GAMES

期日 7月6日(金)～8日(日)

場所 愛知県豊田市

審判 池渕智一・檜崎 潔、福田 弘・富田 拓 (JHA)

JAPAN CUP 2007 KUMAMOTO GAMES

期日 7月11日(水)～15日(日)

場所 熊本県熊本市他

審判 浜田浩和・小笠原久郎、永春文義・安田 寛 (JHA)

5) 会 議

・ 審判審査指導委員会

期 日 10月20日(土)、21日(日)

場 所 東京都品川区五反田 東興ホテル

内 容 A・B級受験状況及び審査結果の検討
レフェリーコース前期の受験状況報告
総合選手権大会審判員のノミネート
審判指導内容の検討と資料作り

期 日 12月20日(木)～22日(土)

場 所 東京都

内 容 ①審判指導法
②審判指導 DVD の利用方法
③ヤングレフェリープロジェクト (YRP) の問題点検討

期 日 1月25日(金)

場 所 国立スポーツ科学センター
平成20年度A・B級受験申請書類審査
YRPの要項作成
審判部合同会議準備

・ 審判部合同会議

期 日	1月27日(土)・28日(日)
場 所	国立スポーツ科学センター
参加者	審判部長・競技運営部長・審判審査指導専門委員・各ブロック審判部長・各連盟審判部長・競技規則研究専門委員長・審判国際専門委員長・日本リーグ審判部長・審判総務専門委員長及び審判総務専門委員
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度諸活動の総括 ・平成20年度活動の検討 ・競技規則改正点の解説 ・審判部運営上の問題検討 ・20年度都道府県審判長会議の内容検討

5. 競技力向上(強化)に関する事業

1) 国際大会・国際交流親善試合

チーム名	大会名	日 程	場 所	結 果
男子N	中国国際大会	6/7-6/9	中国・蘇州	1;フランス 2;韓国 3;中国 4;日本
女子U-20	第9回女子ジュニアアジア選手権(WC2008予選)	7/1-7/7	カザフスタン・アルマトイ	1;韓国 2;カザフスタン 3;チャイニーズタイペイ 4;日本 5;中国、イラン、カタール
女子N	第12回ヒロシマ国際	7/4-7/7	広島県・広島市	1;日本 2;メイプル 3;韓国実連 4;日本リーグ選抜
男子N	Japan Cup 2007 TOYOTA Games	7/6-7/8	愛知県・豊田市	1;日本 2;エストニア選抜 3;日本リーグ選抜 4;中国
男子N	Japan Cup 2007 KUMAMOTO Games	7/11-7/15	熊本県・熊本市他	
女子N	Korean Air 2007 安東国際大会	7/16-7/20	韓国・安東市	1;韓国 2;ロシア 3;日本 4;中国 5;ウクライナ
女子U-18	第2回女子ユースアジア選手権(WC2008予選)	7/23-7/28	チャイニーズタイペイ・タイペイ	1;韓国 2;日本 3;チャイニーズタイペイ 4;チャイニーズホンコン 5;カタール
女子N	2008北京オリンピック女子アジア予選	8/25-8/29	カザフスタン・アルマトイ	1;カザフスタン 2;韓国 3;日本 4;カタール
男子U-16	第11回日韓スポーツ交流(派遣/男子)	8/25-8/30	韓国・盆山市	
男子N	2008北京オリンピック男子アジア予選	9/1-9/6	愛知県・豊田市	1;クウェート 2;韓国 3;日本 4;カタール 5;UAE
女子U-16	第11回日韓スポーツ交流(派遣/女子)	9/13-9/19	韓国・済州島	
女子N	オランダカップ	10/11-10/23	オランダ・ロッテルダム	1;ドイツ 2;日本 3;オランダ、ポーランド、アイスランド、スペイン
女子U-16	第11回日韓スポーツ交流(受入/女子)	10/16-10/22	石川県・小松市	
女子N	ツルチンカップ	11/20-11/25	ウクライナ	1;ウクライナ 2;日本 3;ア

				ルゼンチン 4;オーストリア
女子 N	第 18 回女子世界選手権	12/2-12/16	フランス・ニーム他	1;ロシア 2;ノルウェー 3;ドイツ 4;ルーマニア 5;フランス 6;韓国 19;日本
男子 N	2008 北京オリンピックアジア予選再試合	1/29	東京	1;韓国 2;日本
女子 N	2008 北京オリンピックアジア予選再試合	1/30	東京	1;韓国 2;日本
男子 N	第 13 回アジア男子選手権(WC2009 予選)	2/16-2/26	イラン・イスファファン	1;韓国 2;クウェート 3;サウジアラビア 4;イラン 5;カタール 6;バーレーン 7;日本 8;中国 9;UAE 10;レバノン
女子 N	中国国際大会 2008	3/6-3/8	中国・北京	1;中国 2;韓国 3;日本 4;カザフスタン
女子 N	2008 北京オリンピック IHF 女子世界最終予選	3/28-3/30	ルーマニア・ブカレスト	1;ルーマニア 2;ハンガリー 3;日本 4;ポーランド

2) 海外強化合宿

チーム名	事業名	日程	場所	参加人数計(役員、選手)
男子 N	ヨーロッパ遠征	5/5-5/23	クロアチア	22 名(役員 4 名、選手 18 名)
女子 N	ヨーロッパ遠征	6/7-6/20	オランダ・スイス	22 名(役員 5 名、選手 17 名)
男子 N	ヨーロッパ・アフリカ遠征	8/4-8/20	チュニジア・スロベニア・クロアチア	23 名(役員 5 名、選手 18 名)
女子 N	ヨーロッパ遠征	11/21-11/30	ウクライナ	25 名(役員 8 名、選手 17 名)
女子 N	ヨーロッパ遠征	3/14-3/27	オランダ・フランス	24 名(役員 6 名、選手 18 名)

3) 国内強化合宿 (男女ナショナル)

チーム名	場所	日程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
男子 N	第 1 回トヨタ車体	4/13-4/22	24 名(役員 4 名、選手 20 名)	—	赤尾和彦
	第 2 回大崎電気	6/1-6/4	24 名(役員 4 名、選手 20 名)	—	赤尾和彦
	第 3 回紋別	6/13-6/20	24 名(役員 4 名、選手 20 名)	—	赤尾和彦
	第 4 回トヨタ車体	7/1-7/5	21 名(役員 4 名、選手 17 名)	—	赤尾和彦
	第 5 回大同特殊鋼	8/27-8/30	26 名(役員 8 名、選手 18 名)	加藤 公	赤尾・大城
	第 6 回トヨタ車体	1/4-1/7	29 名(役員 4 名、選手 25 名)	—	赤尾和彦
	第 7 回トヨタ紡織九州	1/13-1/15	30 名(役員 5 名、選手 25 名)	—	赤尾・山本
	第 8 回 NTC	1/21-1/25	32 名(役員 7 名、選手 25 名)	沖本信和	赤尾・山本
	第 9 回 NTC	2/7-2/14	29 名(役員 4 名、選手 25 名)	—	赤尾和彦
女子 N	第 1 回オムロン	5/7-5/12	26 名(役員 4 名、選手 25 名)	—	倉田忠司
	第 2 回オムロン	8/15-8/21	27 名(役員 8 名、選手 19 名)	佐久間克彦	倉田忠司
	第 3 回オムロン	1/14-1/18	27 名(役員 6 名、選手 21 名)	佐久間克彦	倉田忠司
	第 4 回 NTC	1/23-1/25	25 名(役員 6 名、選手 19 名)	佐久間克彦	倉田忠司
	第 5 回 NTC	2/29-3/4	20 名(役員 5 名、選手 15 名)	—	倉田忠司
	第 6 回 NTC	3/9-3/13	24 名(役員 6 名、選手 18 名)	—	倉田・須古

4) 国内強化合宿（男女ジュニア）

チーム名	場 所	日 程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
女子 U-16	北國銀行	8/28-8/31	19名(役員3名、選手16名)	—	—
女子 U-18	武庫川女子大学	4/28-4/30	25名(役員3名、選手22名)	—	—
女子 U-18	武庫川女子大学	6/22-6/30	20名(役員4名、選手16名)	—	木村淳一
女子 U-18	武庫川女子大学	7/19-7/22	21名(役員5名、選手16名)	—	木村淳一
女子 U-20	オムロン	5/21-5/24	24名(役員4名、選手20名)	—	赤坂 守
女子 U-20	大崎電気	6/26-6/28	21名(役員5名、選手16名)	北岡克彦	大城一樹
女子 U-24	NTC	2/25-2/28	24名(役員4名、選手20名)	—	高野内俊也
男子 U-19	大同工業大学	8/31-9/2	17名(役員3名、選手14名)	—	—
男子 U-21	大同工業大学	8/31-9/2	15名(役員2名、選手13名)	—	—
男子 U-21	NTC	2/13-2/17	22名(役員2名、選手20名)	—	—
男子 U-24	国立スポーツ科学センタ	8/7-8/9	25名(役員6名、選手19名)	—	—
男子 U-24	NTC	2/1-2/3	27名(役員3名、選手24名)	—	永井正之

5) ドクター・トレーナー帯同（遠征・大会）

チーム名	遠征・大会名	日 程	場 所	ドクター	トレーナー
男子 N	ヨーロッパ遠征	5/5-5/23	クロアチア	—	赤尾和彦
男子 N	中国国際大会	6/7-6/9	中国	—	赤尾和彦
女子 N	ヨーロッパ遠征	6/7-6/20	オランダ・スイス	—	倉田忠司
女子 U-20	第9回女子ジュニアアジア選手権	7/1-7/7	カザフスタン	北岡克彦	大城一樹
女子 N	第12回ヒロシマ国際	7/5-7/7	広島市	佐久間克彦	倉田忠司
男子 N	JAPAN CUP 2007	7/6-7/15	豊田・熊本	—	赤尾和彦
女子 N	安東国際女子大会	7/16-7/20	韓国	—	須古将史
女子 U-18	第2回女子ユースアジア選手権	7/23-7/28	台湾	—	木村淳一
男子 N	ヨーロッパ・アフリカ遠征	8/4-8/20	チュニジア他	沖本信和	赤尾和彦
女子 N	2008北京オリンピックアジア予選	8/25-8/29	カザフスタン	佐久間克彦	倉田忠司
男子 U-16	第11回日韓スポーツ交流	8/25-8/30	韓国	—	酒井ひとみ
男子 N	2008北京オリンピックアジア予選	9/1-9/6	豊田市	加藤 公	赤尾・大城
女子 U-16	第11回日韓スポーツ交流	9/13-9/19	韓国	—	吉田美美香
女子 N	オランダカップ	10/11-10/23	オランダ	—	倉田忠司
女子 U-16	第11回日韓スポーツ交流	10/16-10/22	小松市	—	吉田美美香
女子 N	ヨーロッパ遠征・ツルチンカップ	11/20-11/30	ウクライナ	佐久間克彦	倉田忠司
女子 N	第18回女子世界選手権	12/2-12/16	フランス	佐久間克彦	倉田忠司
女子 N	2008北京オリンピックアジア予選再戦	1/29	東京	佐久間克彦	倉田忠司
男子 N	2008北京オリンピックアジア予選再戦	1/30	東京	沖本信和	赤尾和彦
男子 N	第13回アジア選手権	2/16-2/26	イラン	沖本信和	赤尾和彦
女子 N	中国国際大会 2008	3/6-3/8	中国	—	倉田忠司
女子 N	ヨーロッパ遠征・IHF 最終予選	3/14-3/30	オランダ・フランス	佐久間克彦	倉田忠司

6) NTS（ナショナルトレーニングシステム）

・ブロックトレーニング（9ブロック）の実施

小・中・高それぞれ男女約1,000名

・センタートレーニングの実施

中・高男女ブロック推薦各50名をナショナルスタッフで書類審査を実施し各30名程度を中心に、2008年度U16、U19代表強化指定選手の選考を行った。

7) JOC ジュニアオリンピックカップ大会

男子優勝：山口県選抜 女子優勝：福井県選抜

オリンピック有望選手の選考

男子 佐々木 亮輔（岩手県：黒石野中学校）

男子 下地 亮（沖縄県：平良中学校）

8) 日本代表チーム

- ・年度予算を男女代表チームに重点配分した。
- ・海外国内での国際試合や日本リーグチームとのトレーニング試合を実施した。
- ・オリンピック予選までに20試合以上の実践を目標した。
- ・少数精鋭&重点強化体制で着実な運営ができた。
- ・日本リーグチームとの連携強化を図った。

大会の成績は次のとおりであった。

・ JAPANCUP 2007 において、男女ともに優勝

・ 男女の北京オリンピックアジア予選

- ・ 女子はカザフスタンで開催された。日本・韓国・カザフスタンが2勝1敗で並んだが、得失点差でカザフスタンが第1位になって北京オリンピック出場権を獲得した。第2位の韓国は、最終予選出場権獲得。日本は、第3位。最終試合のカザフスタン v s 韓国、日本 v s 韓国では意図的なジャッジが行われた疑いがあった。
- ・ 男子は、豊田市で開催された。第1位はクウェートで北京オリンピック出場権を獲得、第2位韓国は最終予選出場権獲得、第3位日本となった。初戦の韓国 v s クウェート戦・日本 v s クウェート戦で、意図的な偏りジャッジがあった。

・ 女子世界選手権出場第19位

- ・ 女子世界選手権がフランスで開催された。日本は、ハンガリー・スペイン・コンゴと予選で対戦し接戦となったけれども、3敗で4位となった。4位グループ：19~24位決定戦に回った。中国・パラグアイ・アルゼンチンに勝って、第19位となった。また、世界選手権の結果、韓国が第6位となったことからオリンピック最終予選にアジア大陸からの出場権を獲得した。

・ 男女の北京オリンピックアジア大陸予選再試合

- ・ 国際連盟（IHF）の理事会が、アジア予選再試合を決定したことを受けて、IHFからの要請で男女ともに東京で開催されることになった。日本・韓国が参加（クウェート・カタール・UAE・カザフスタンは不参加）した結果、男女共に韓国が勝ち北京オリンピック出場権を獲得した。日本は、世界最終予選への出場権獲得となった。

・ アジア選手権男子日本代表第7位

- ・ 予選リーグのサウジアラビア戦に引き分け、UAEには快勝したものの、カタールに勝てば準決勝進出であったが1点差負けで進出できなかった。7-8位決定戦で中国に勝ち7位となったが結果としては振るわなかった。

・ 女子北京オリンピック世界最終予選

- ・ 当初フランス：ニームでの予選組み合わせであったが、CAS裁定の結果、ルーマニア：ブカレストに変更された。初戦ルーマニアには、完全な力負けをしたが、次のポーランドには公式戦43年振りの勝利、王手がかかったハンガリー戦は、接線の末敗れた。念願

であった北京オリンピック出場権を獲得できなかった。

9) **u n d e r** 代表チーム

- ・年齢カテゴリー別の体制でNTSと連携して強化ができた。
- ・代表チームをはじめu n d e r チームスタッフは、ナショナルスタッフチームとして、カテゴリー強化合宿・NTSなどによって指導育成した結果、次のとおりであった。

・女子代表アジアジュニア選手権（カザフスタン）第4位

20歳以下のジュニア世代のアジア選手権を日本で開催し念願であった世界ジュニア選手権出場を期待した。しかし、予選リーグで中国に惜敗し、準決勝に進めなかった。

・女子ユース代表アジア選手権出場（台湾）第2位

女子ユース日本代表が、第1回女子ユース世界選手権(カナダ)に出場し、予選リーグ2勝3敗で4位、順位決定戦でタイに勝利し第7位と健闘した。

・男女U16代表日韓交流

10) 分析活動および体力向上策

情報科学委員会活動として、国立スポーツ科学センターと強力なバックアップによって分析活動を実現。予算についても、大きな支援をいただいた。

また、NTCのモデルとして競技団体毎の体力向上策の一環として、体力測定モデル化を推進した。

11) ドーピング活動

日本リーグプレーオフ・全日本学生選手権・国体で、ドーピングコントロール実施。

12) ナショナルトレーニングセンター設計

予てからの念願であったナショナルトレーニングセンターの設置について、文部科学省そして日本スポーツ振興センターとJOCと協力して、建物とその機能などについて、要望や意見を出し合って設計施工を実施して12月に完成した。

6. 機関誌発行に関する事業

1) 年10回の発行を行った。

- 1ヶ月発行部数 3,750部
- (年3回登録中学校へ無料配布 約1,150部)
- (年1回登録小学校へ無料配布 約250部)

2) 広告協賛 12社

3) インターネット情報との連携を図り、タイムリーな記事の提供を図った。

4) 機関誌の内容を検討した。

- ①ナショナルの情報「北京への道」のシリーズを設置し、チームの動きを掲載
- ②協会基本方針の掲載、及び理事会、評議員会、常務理事会、委員会、各連盟の報告
- ③強化部門情報の掲載(N T S、ナショナル合宿等)
- ④国際情報の掲載、各大会結果報告
- ⑤企画記事を検討
- ⑥がんばれ 10 万人会情報の掲載
- ⑦ナショナルの試合結果から技術分析記事を提供

7. 企画に関する事業

- 1) 中期スケジュールに基づく、ナショナル強化・普及・国際行事等の調整を行った。
- 2) 日本リーグとの連携により、各種（GM、監督、JHL開催地責任者会議）研修会を行った。
- 3) 北京オリンピックに向けた具体的な行動を実施。
 - a. ジャパンカップ 2007 豊田大会を北京オリンピック男子アジア予選リハーサル大会として開催・運営
 - b. ジャパンカップ 2007 熊本大会を 1997 年世界選手権開催 10 周年記念大会として開催・運営
 - c. 北京オリンピック男子アジア予選の開催・運営
 - d. 北京オリンピックアジア予選再試合の開催・運営

8. 広報に関する事業

1) 広報

- ①広報年間スケジュールに基づき活動を行った
 - ・ 定期記者発表（日本リーグ、日本リーグ女子・男子プレーオフ）
 - ・ 臨時記者発表（北京オリンピックアジア予選再試合に伴うもの7回、他2回）
 - ・ プレスリリース(メールリリースも含め)124回(男女日本代表情報、各カテゴリー国際大会、国内大会他)
 - ・ ナショナルチームの情報公開
- ②インターネット発信(ホームページ)の充実を図った
- ③マスコミ（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ライター他）の取材調整を行った。576件
- ④東京記者クラブハンドボール分科会との打合せ連絡会を行い、意見交換を行った
- ⑤北京オリンピックアジア予選再試合(1/29,30)開催に際し、報道特別体制にて対応した
103社435名(新聞、通信社、放送局、雑誌)、130名(テレビ、ラジオ技術スタッフ)、18社45名
(外国メディア)

2) インターネット

- ①日本協会ホームページの充実を図った

- ・ 日本協会の情報公開項目を増やした（過去の指導者表彰者一覧など）
 - ・ 情報発信のスピード化を推進した（大会結果速報用に掲示板を利用した）
 - ・ ホームページコンテンツ作成要員を1名増員した
 - ・ ホームページのサーバー容量を500MBに増強した
 - ・ ブロック大会のページを作成し、地方協会発信ページとの大会リンクに務めた
 - ・ 携帯サイト発信の検討を行った
- ②コンテンツ作成の効率化を図った
- ③HP訪問数が継続的にアップしている

9. 財務・会計に関する事業

平成19年度は、平成18年度に引き続き財政状況を取り巻く環境が経済的にも社会的にも厳しい状況にあり、縮小均衡を前提に緊縮財政を組まなければならない状態であった。しかし、前代未聞のオリンピック予選やり直し決定により“ハンドボール”が注目されたことで、1月の北京オリンピックアジア予選再試合が1億円事業であるにも関わらず、ほとんど負担金無し(4月現在)で実施できた。

収入面では、マーケティング事業、放映権料及び大会入場料収入が飛躍的に増収し、一般会計の収入は前年比1億円足らずとなった。

支出面では、各事業の見直し、効率的な予算執行、JOC補助金等の効率的運用により一般会計からの繰入額が減り、一般会計の当期収支差額をプラスとすることが出来た。

10. 日本リーグに関する事業

1) 日本リーグ「プロの運営」を目指し始動した。(継続)

- ・ ゼネラルマネジャー（GM）をチームに設置し、研修会を行い意見交換・育成を図った（GM研修会では、メディア活用、また他競技運営方法を学んだ）
- ・ ファンサービスに積極的に取り組み、大会運営の向上を図った（サイン会・撮影会・セレモニー・ハーフタイムイベント・チーム愛称・マスコット）
- ・ 開催県協会との連携強化とリーグ戦運営力向上を図る事を目的とした、開催地責任者会議を行った。（チーム運営基調講演・各開催地運営力アップ事例発表）
- ・ プレーオフ会場入場料金のアップ（アリーナエリア指定券発行）の継続
- ・ 男女プレーオフ別開催（大阪・東京）観客動員、プレーオフ興行化
- ・ プレーオフテレビ中継全国展開（CS放送）ファンへの対応

2) 組織基盤の強化に取り組んだ。

- ・ 企業・地域市民・地域行政が三位一体となったリーグ運営
- ・ 地域リーグの立ち上げ（南九州・北九州）下部組織の普及と発展
- ・ リーグ所属チーム選手のハンドボールクリニック、講師としての選手派遣活動
- ・ 地位自治体とのタイアップ

- ・沖縄琉球コラソン日本リーグ加盟手続きのバックアップ

3) 広報活動の強化（メディア対策の充実）

- ・リーグレギュラーシーズン前、プレーオフ前記者発表会の質の向上を図った(各チーム監督)
- ・記者発表後、チーム監督、選手、機構役員等によるマスコミ懇親会を行った
- ・マスコミ各社への試合速報の配布
- ・プレーオフテレビ中継を全国放送にした（CS放送）
- ・人気選手のマスコミへの登場回数を増やしていった
- ・チームマスコット、愛称の義務化

4) 観客動員最優先に取り組み

- ・各開催地で新たな観客動員に力を入れてきているが、大きな動員増にはならなかった
- ・プレーオフの最多入場者数の更新

5) リーグ活性化事業に取り組んだ。

- ・GM研修会・開催地責任者会議の開催
- ・チャレンジリーグを開催した（女子）
- ・サマーキャンプを開催した（男子）
- ・Japan Cup にリーグ選抜チームの参加（男女）
- ・第4回東アジアクラブ選手権（韓国）に参加した

6) ナショナル活動にバックアップを行う。

- ・北京オリンピックアジア予選再試合(男女)、男子アジア選手権の選手派遣に対し日本リーグ開催日程の変更
- ・各開催地の理解を得て、男女代表選手抜きでの日本リーグ開催

7) 競技間連携の推進

- ・日本トップリーグ連携機構主催の審判講習会、新人研修会に参加した
- ・日本トップリーグ連携機構主催ボールゲームフェスタへの参加（石川県・広島県）

11. 総務に関する事業

1) 定例の諸会議の開催について、開催場所の選択や人員・規模等を勘案し会議費や日程の効率的運営の推進を図った。

- (1)評議員会 6月9日（東京） 2月2日（東京）
- (2)理事会 6月16日（東京） 11月17日（東京） 2月16日（大阪）
- (3)常務理事会 4月14日（愛知） 5月12日（東京） 7月29日（東京） 10月13日（東京）
12月24日（東京） 1月12日（東京） 3月8日（東京）
- (4)本部長会 7月8日（愛知） 12月8日（東京）
- (5)全国理事長会議

10月3日、秋田県湯沢市にて秋田国体開始式前日に開催。日本協会表彰の後、日本協会の現状、強化対策、普及の現状と課題、日本リーグの現況と将来構想、マーケティング状況、10万人会などについて日本協会役員より説明が行われた。同会終了後会場を変え懇親会が行われた。

(6)事務取扱責任者会議 2月17日(大阪)

- ・環境省担当者より地球温暖化の講演を聞いた後、平成20年度の登録業務を主に、日本協会からの説明が行われた。

2) 環境問題

- ・総務部の中に環境委員会を設置した
- ・スポーツと環境保全問題について、主要大会において会場にポスターやバナーの掲示をし、環境問題の啓発に努めた
- ・ハンドボール協会マーク入りのJOC環境バナーを2枚追加作成した
- ・クールビズの実施及びチーム・マイナス6%に法人としての参加手続きをした
- ・事務取扱責任者会議の際に、環境省担当者による地球温暖化の講演を行った

3) 地方協会へメール発信回数を増やし、情報伝達の迅速化に努めた。

12. 「がんばれハンドボール10万人会」サポート会に関する事業

1) 平成19年度サポート会員総数(平成20年3月31日現在)

特別会員	5名
グランド会員	273名
ファミリー会員	85名
ジュニア会員	55名
都道府県ファミリー会員	249名
都道府県グループ会員	5,157名
総数	5,824名

(前年より450名増)

2) 推進活動

- (1)都道府県ファミリー会員・グループ会員入会の促進
- (2)大会会場における会員の優先席設定

3) 事務局

- (1)毎月の入会・更新作業
- (2)打合会の開催・事務処理

13. マーケティングに関する事業

1) 従来 of 協賛企業の再フロー活動

アシックス社、全日本空輸社、伊藤超短波社、エモック社とオフィシャルスポンサー及びオフィシャルサプライヤーとして契約の更新

2) 協賛企業の新規開拓推進

フレンディア社（ドクター水素水）と新規にオフィシャルサプライヤー契約の締結

3) その他主な協賛について

北京オリンピックアジア予選豊田大会ならびに再予選において、日本リーグの企業各社、NTTコミュニケーションズ、大塚ベバレジ社、アシックス社、モルテン社他各社から協賛を頂く

4) オリジナルグッズ、各種指導者向け等の DVD 委託販売の推進

チャンピオンブルーTシャツ、北京オリンピックアジア予選・豊田大会全試合の DVD 等委託販売

5) スポンサー向け日本協会 PR パンフレットおよび協賛企画書

セールスキッドを活用し、大会協賛の企画書と併せて、PR 及びマーケティング活動を実施

6) その他

再予選から博報堂 DY と協業し、マーケティング活動を実施